

週刊

第764号 毎週金曜日発行  
平成31年1月18日

# カナオカ通信

発行=(株)カナオカ機材 東大阪市御厨東2-10-1 TEL06-6787-1440 FAX06-6783-0393

## 野菜とつぶつぶアプサラカフェ 宝塚中山店 空調・換気工事を完成



当社は、昨年末に開店した「野菜とつぶつぶアプサラカフェ」宝塚中山店(写真)の空調・換気工事を完成。

同店は、阪急宝塚線「中山観音」駅から徒歩約5分のダイエー宝塚中山店1階(宝塚市売布東の町21-22)にあり、地元野菜を中心に、雑穀を使用した地産地消と手作りにこだわった自然食カフェ。

## 立派な1対の門松が来訪者の注目集める 前地総合建設・前地社長が今年も寄贈

当社正面玄関の両側に飾られた一対の立派な門松(高さ約1.5m、写真)が来訪者や通りすがりの人の注目を集めています。(有)前地総合建設(大阪市東住吉区田辺4)の前地末彦社長(写真=右端)が毎年、年末に寄贈してくださっているものです。



門松は、歳神(としがみ)を家へ迎え入れるための依代(よりしろ=神体)といわれ、歳神が宿る安息所であり、また神霊が下界に降りてくる時の目標物と考えられていたそうです。

## 人気落語家・露の団四郎師弟が来社 ミニ獅子頭で商売繁盛・無病息災を祈願



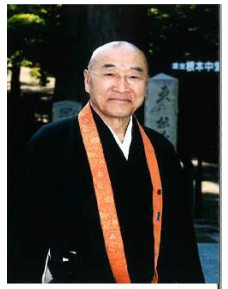
上方の人気落語家・露の団四郎師匠(写真=前列右から2人目)と弟子の団姫さん(同3人目)が1月7日当社を訪れ、紅白のミニ獅子頭で社員らの頭を噛む仕草をし、社員の無病息災・開運招福と会社の商売繁盛を祈願してくださいました。毎年恒例の正月行事。

今年の干支とかけて「坂本龍馬と解く」、その心は「シン(志士)が奮闘します」(団四郎師匠)、カ

ナオカ機材とかけて「雨上がりのタケノコ」と解く、その心は「どんどん伸びるでしょう」(団姫さん)と、なぞかけを披露してくださいました。

## 1/23に今年初のCS研究会 お申し込みがまだの方は1両日中に

当社主宰の異業種交流会「CS研究会」の今年初の例会が下記の要領で開かれます。講師は、善光寺副住職・栢木寛照老師(写真)です。お申し込みがまだの方は、1両日中にお問い合わせいたします。まだ若干の余裕があります。



▽日時:平成31年1月23日(水)正午~2時▽会場:中央電気倶楽部(大阪市北区堂島浜2)▽演題:「世の中 あたり前はない」▽会費(昼食付き):5000円(会員)、7000円(非会員)

## 心に響く名経営者の言葉(19)

「名を成すのは常に困窮のときであり、事の破るの多くは得意のときである」  
(元伊藤忠商事社長・会長)

越後正一

(1901~1991)

(PHP研究所)

生きていくことのありがたさは、死ぬことが与えてくれる。人間は一度は死なねばならない。いつ死ぬかもしれない。こう思うとき、生きていくことのありがたさをしみじみ感じる。もし人間が何百歳にもなつてまだ死ななかつたら、生きていることのありがたさは感じられなくなるだろう。だから、死という問題をよく見つめて、それに対する心構えをすること、これが生きている一日一日をたいせつにする心を生み出すものと思う。  
(常岡一郎著 致知出版社刊)

生と死

常岡一郎一日一言

48